

I 業務運営・財務内容等の状況  
 (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標  
 ① 評価の充実に関する目標

中期 目 標	1) 自己点検・評価体制の整備 ○ 教育研究活動及び管理運営に関して、中期計画の履行状況を定期的に自己点検・評価を行い、問題点の改善につなげる体制を整備する。 2) 自己点検・評価及び外部評価等の反映 ○ 社会からの意見を収集し、大学運営の参考にするなど、自己点検・評価、外部評価、計画への反映といったPDC Aサイクルを実行する。
--------------	---

中期計画	年度計画	進捗 状況	ウエイト
1 評価の充実に関する目標を達成するための措置 1) 自己点検・評価体制の整備に関する計画			
<b>【25】</b> 大学評価室は、組織データの収集・整理・閲覧体制を整備するとともに、関係組織と連携して、全学の自己点検・評価を一元的に企画・立案・実施し、外部評価の結果を踏まえ、改善措置を講じる。	<b>【25-1】</b> 引き続き、大学評価に必要となる情報として、「大学評価室が毎年度収集するデータ」、「事務局の各課において整理・保管するデータ」及び「公表情報または各種調査等での回答を活用するデータ」の区分により、組織データの収集、整理を行う。	Ⅲ	
	<b>【25-2】</b> 引き続き、大学評価室において、「中期目標・中期計画進捗管理システム」を運用し、各部局の中期目標・中期計画、年度計画の一元管理を実施する。	Ⅲ	
	<b>【25-3】</b> 大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価について、大学評価基準等に基づき、自己点検・評価を行う。	Ⅳ	
	<b>【25-4】</b> 「教育研究センター等固有の年度計画」を策定し、各教育研究センター等の活動状況の収集・分析を行い、自己点検・評価に活用する。	Ⅲ	
2) 自己点検・評価及び外部評価等の反映に関する計画			
<b>【26】</b> 大学評価基礎データベースを中心に、教員と学生の個人別活動情報を収集し、組織別集計を行う。また、評価や申請書に活用される書式を想定した学内情報の収集・整理を行い、情報を共有できる閲覧方式を整備する。	<b>【26-1】</b> 引き続き、大学評価室において、大学評価基礎データベースにより、教員等の教育研究等業績に関する情報を継続して収集・分析する。	Ⅲ	
	<b>【26-2】</b> 引き続き、中期目標・中期計画進捗管理システムを用いて、各教育研究センター等による「教育研究センター等固有の年度計画」の進捗状況を学内に周知する。	Ⅲ	

<p><b>【27】</b> 各部門、各教育研究センター、各業務管理センター並びに事務局各課における活動状況、自己点検・評価及び改善に向けた取組みについて、広く学内外に公表する。</p>	<p><b>【27-1】</b> 大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価を受審し、自己評価書及び評価結果をホームページ等により学内外に公表する。</p>	<p>Ⅲ</p>	
		<p>ウェイト合計</p>	

I 業務運営・財務内容等の状況  
 (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標  
 ② 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標	1) 諸情報の一体的な発信 ○ 大学の理念や教育目標、教育研究活動、管理運営活動に関する諸情報を積極的に発信し、社会に対する説明責任を果たす。
------	--

中期計画	年度計画	進捗状況	ウェイト
2 情報公開や情報発信等に関する目標を達成するための措置 1) 諸情報の一体的な発信に関する計画			
【28】 大学評価基礎データベース、研究者総覧、知のシーズ集、K I T 学術成果コレクション及びシラバスの各システムを結合し、情報を収集、発信、閲覧及び活用する際の利便性を向上させる。	【28-1】 引き続き教員の大学評価基礎データベース、K I T 学術成果コレクション、研究者総覧のデータ連携を実施する。	Ⅲ	
【29】 広報センターにおいて、広報マニュアルに従い種々の広報媒体を駆使して、多角的かつ積極的な広報活動を行うとともに、広報効果を測るため、専門家の助言に基づき、関係者並びに社会の意見を聴取する。	【29-1】 引き続き、正確で新しい情報を発信するために、学内に設けた「ホームページ点検委員」により、定期的に点検する。	Ⅲ	
	【29-2】 引き続き、地域社会と本学の協力関係を強化するため、地域への情報発信などを行う。	Ⅲ	
	【29-3】 引き続き、京都大学記者クラブ、文教速報及び文教ニュースへの投稿や大学公式SNSなど、多様な手段を用いて積極的に情報発信、情報提供を行う。	Ⅳ	
	【29-4】 引き続き、広報効果を定期的に検証するため、広報誌読者及びオープンキャンパス参加者へのアンケート調査を実施し、またホームページのアクセスログ解析を行う。	Ⅲ	
【30】 I T を活用して、キャンパス相互の通信網の整備と連携大学との有効な相互接続を行う。	【30-1】 引き続き、松ヶ崎キャンパスと嵯峨キャンパス、京丹後キャンパス、ならびに京都ノートルダム女子大学との間の高速ネットワークを管理・運用する。	Ⅲ	
		ウェイト合計	

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する特記事項

## ○大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価の受審と課題の改善に向けた取組

大学評価・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしている」との評価を得た。同時に、大学機関別選択評価の選択評価事項B「地域貢献活動の状況」、選択評価事項C「教育の国際化の状況」を受審し、それぞれ「目的の達成状況が良好である」、「目的の達成状況がおおむね良好である」との評価を得た。特に、選択評価事項Cについては、全国初の受審（他2校）であり、評価を通じた教育研究の質の向上を積極的に試みた取組である。また、これらに係る自己評価書及び評価結果は、本学Webサイトにより学内外に公表している。

受審に際しては、データ等を各業務管理センター等から収集したうえで、大学評価室で一元的に分析を行い、自己評価書を作成した。自己評価の過程で明らかになった課題や、評価結果で課題とされた事項については、大学評価室が各業務管理センター等に速やかにフィードバックしている。このうち一部の課題については、ファカルティ・ディベロップメントの実質化のために授業公開の実施方法を抜本的に見直すことで参加者の大幅増に繋げるなど、早急に対応し、改善に繋げている。今後は、他の課題も含め改善策とその実施状況を取りまとめ、公表することとしている。

< 関連計画：【25-3】、【27-1】 >

## ○学生広報チーム等による積極的な情報発信活動

前年度に学生広報チーム「K-NOSBY」を発足させ、学生の目線で本学の魅力を発掘・発信している。平成26年5月には、「K-NOSBY」が主体となって、ワールド・カフェ方式の意見交換会「古山サロン」を開催するなど、活動の幅を広げている。この意見交換会は、学生が普段接する機会の少ない学長・副学長と、大学の諸問題等について直接議論を交わす場として設けられたもので、学部学生・大学院生のほか、一般教職員や本学卒業生も参加し、「本学のええところ・あかところ」というテーマで活発に議論が行われた。

また、「K-NOSBY」が中心となって、引き続き大学公式SNS (facebook、twitter、LINE) により、幅広い層へ大学情報を発信しており、平成26年度中の投稿はfacebook138件、twitter36件、LINE33件となっている。特に、京都の四季折々の風物とともに大学の魅力を紹介するfacebookは、学外者や卒業生等から大きな注目を集めており、本学ページに対する好意的反応を示す「いいね!」を、平成26年度末現在で2,458ユーザ（うち、平成26年度中の新規登録は752ユーザ）から得ている。

このほか、平成27年3月に本格稼働した大学ポータルに参加し、他大学とともに一元的に教育情報を公表するなど、さらに多様な媒体から積極的な情報発信を行っている。

< 関連計画：【29-3】 >

## ○大学情報の国際的な発信

海外の大学との交流、留学生受入、国際産学連携を推進するため、新設した国際担当副学長等により積極的な情報発信を行った。「日中大学フェア&フォーラム2015 in China」（中華人民共和国）、「京都留学説明会・交流会」（台湾）に参加し広報活動を行ったほか、交流協定を締結し交流実績のあるカント大学（ベトナム）、慶南科学技術大学（韓国）等を訪問し、改めて留学制度の紹介等により連携強化を図った。

また、国際センターWebサイトにより外国人研究者、留学希望者、卒業留学生等へ情報を発信してきたが、当該情報を本学公式Webサイトへ一元化し分かりやすいものとする再構築を行い、平成27年度中に公開を開始する準備を進めた。

< 関連計画：【29-3】 >